

## 今日のトピック 原油価格は経済活動再開を背景に上昇（2020年6月） 今後は経済活動再開と感染再拡大の狭間で推移

### ポイント1 原油価格は経済活動再開と減産延長を背景に上昇

- 北米の代表的な原油指標であるWTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）先物価格は、この1カ月で20%以上上昇し、足元39米ドル程度で推移しています。
- 協調減産実施によって市場が落ち着きを取り戻したことに加えて、世界各国・地域が新型コロナ感染抑制のために導入したロックダウン（都市封鎖）を緩和し、経済活動再開に動き始めたことが要因です。
- 6月6日の会合で、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の主要産油国で構成するOPECプラスが、日量970万バレルの大規模減産を7月末まで1カ月延長することを決定した点も安心材料となりました。



### ポイント2 新型コロナ感染拡大によって幅広く需要が減少

- 6月17日に公表されたOPEC月報6月号では、2020年の世界の原油需要予想は9,059万バレルと、前月見通しから変更ありませんでした。2020年の原油需要を前年比で見ると、OPECは日量908万バレルの減少、国際エネルギー機関（IEA）は前月見通しから50万バレル上方修正し同810万バレルの減少と予想しています。
- 新型コロナ感染拡大によって輸送用燃料、産業用燃料、石油化学原料など幅広く需要が減少しています。

### 【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
<b>世界需要</b>	<b>98.8</b>	<b>99.7</b>	<b>90.6</b>
<b>供給</b>	<b>99.7</b>	<b>99.6</b>	<b>90.6</b>
非OPEC	68.3	70.3	67.0
OPEC	31.3	29.3	23.6

<b>需給バランス</b>	<b>0.8</b>	<b>▲0.0</b>	<b>0.0</b>
---------------	------------	-------------	------------

- (注1) 需給バランス=供給-需要。  
(注2) 単位は百万バレル（日量）。  
(注3) 2018年は実績。2019年は実績見込み。2020年はOPECによる予想。ただし、2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 今後は、経済活動再開と感染再拡大の狭間で推移

- 原油価格は、ここまでロックダウン緩和による経済活動再開を背景に上昇してきましたが、新型コロナの感染状況を見ると新興国を中心に感染者数は増加しており、米国などでは感染再拡大が懸念されています。今後は、経済活動再開と感染再拡大の状況を見ながらの展開を予想します。
- 但し、8月以降は日量770万バレルへ減産幅の縮小が予定されているほか、6月8日にはサウジアラビアが別枠で実施している自主減産の6月終了を発表しており、今後の協調減産協議にも注意が必要です。

**ここもチェック!** 2020年6月15日 ロックダウン解除と『感染再拡大』と経済  
2020年5月21日 原油価格回復もまだ十分ではない（2020年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。